

## 研究課題名

食中毒原因ウイルスの不活化のための研究

## 研究の目的と方法

食中毒原因ウイルスのうち、特にノロウイルスによるウイルス性食中毒は大規模な事例に繋がることが多く、実効性の高い不活化方法の確立が求められています。しかしノロウイルスは長年にわたって培養法が確立されていなかったことから、不活化には不明な点が多く残されています。この研究ではノロウイルスを中心として食中毒原因ウイルスの不活化条件の特定を目指します。

糞便から分離したウイルスに様々な不活化処理を施した後に細胞に感染させ、不活化条件を探ります。また糞便の一部を用いてノロウイルスの遺伝子情報を調べますが、病原体のみを対象とするためご提供者が特定される解析は行いません。これらの検体は国立感染症研究所、和歌山県立医科大学、大阪大学のみで使用されます。

この研究から得られる結果は、ノロウイルスを始めとする食中毒ウイルスに対する衛生対策方法を構築する上で大きく役立つと考えられます。なお本研究では個人を特定する情報は使用しません。また研究の成果は学会や学術誌での発表、ガイドライン作成に使用します。その際にも、対象者のお名前など個人が特定できるような情報が公表されることは一切ありません。

## 研究期間

2023年1月20日から2025年3月31日まで

## 研究に用いる試料・情報

大阪健康安全基盤研究所、岩手県環境保健研究センター、宮城県保健環境センターに検査のために搬入された便検体の残余を国立感染症研究所、和歌山県立医科大学、大阪大学のみを提供します。試料提供者の情報といたしまして、年齢、発症日及び採取日の全て若しくは可能なものを使用させていただきますが、これ以外の検体に関する個人情報及び個人識別符号は削除して匿名化し、検体番号のみを試料とともに提供します。

## 研究組織

国立感染症研究所

和歌山県立医科大学

大阪大学微生物病研究所

大阪健康安全基盤研究所

岩手県環境保健研究センター

宮城県保健環境センター

## 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

国立感染症研究所 ウイルス第二部 主任研究官 村上耕介

和歌山県立医科大学 薬学部 教授 佐藤慎太郎

大阪大学微生物病研究所 遺伝子情報実験センター 助教 元岡大祐

大阪健康安全基盤研究所 微生物部 主幹研究員 左近直美

岩手県環境保健研究センター 保健科学部 部長 高橋知子

宮城県保健環境センター 微生物部 副主任研究員 坂上亜希恵

## お問合せ先

〒208-0011

東京都武蔵村山市学園 4-7-1

国立感染症研究所ウイルス第二部

村上耕介（研究責任者）

Tel: 052-561-0771